

ひろしまラウンドテーブル 2022 セッションテーマ

セッション1：ロシアによるウクライナ侵略が核兵器に与える影響

Session 1 Russian war on Ukraine and its impact on nuclear weapons

2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵略は武力行使による国境線の変更を目指す行動としてそれ自体が国連憲章に違反する行動であるが、それに加え、プーチン大統領が繰り返し核兵器の使用について言及している。このような核による威嚇はこれまでに国際社会が積み重ねてきた核軍縮・核不拡散の取組に逆行するものである。この侵略が核軍縮交渉と核不拡散体制に与えた影響を考えなければならない。

さらに、核兵器に依存する抑止戦略は避けられない選択なのか、改めて考える必要がある。ロシアによるウクライナ侵略を、核大国が非核兵器国へ核威嚇を行いながら侵略行為を行うという安定 - 不安定逆説の派生形として見ることができるが、そのような侵略を前にしたアメリカを中心とする同盟諸国は通常兵器による抑止に加えて核抑止力の強化を模索している。それは合理的な選択なのか、核抑止の限界について改めて検討する必要がある。

さらには、200年以上に渡って中立政策をとってきたスウェーデンやフィンランドが北大西洋条約機構(NATO)への加盟を決定したが、両国の核軍縮・不拡散への役割の後退を招かないようにするためには何ができるのかも考えなければならない。

セッション2：核軍縮・不拡散のための選択

Session 2 Options for nuclear disarmament and non-proliferation

ウクライナ侵略は核軍縮・不拡散に関する協議の進展を阻もうとしている。そこから生じる問題として以下の3点があげられる。

第一に、新STARTの協議再開が見えないなかで、アメリカとロシアの核軍縮をこれからどう進めることができるのか。第二に、核兵器禁止条約締約国と条約に加わらなかった諸国との間に開いたギャップをどうすれば小さくすることができるのか。核兵器国の条約批准から10年以内の核兵器廃絶を定めたTPNW第1回締約国会議におけるウィーン行動宣言についてどのように評価できるのか。第三に、核不拡散体制をどうすれば再建できるのか。開催が決まったNPT運用検討会議のアジェンダはどのように設定することができるだろうか。既存の2国間の軍縮枠組みと多国間の軍縮枠組みの双方において核軍縮・不拡散の議論をこれからどのように進めることができるのかを考えなければならない。

また、東アジア地域について考えるとき、中国と西側同盟との緊張が高まり、北朝鮮もミサイル発射実験を繰り返すなかにおいて、対中抑止力の強化と核抑止力の強化や核共有との結びつきが避けられないものなのか、核への依存を高めないためにも検討しなければならない。